

白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

No. 8

担当部署	企画課		企画・地域振興G							
事業名	多文化共生人材育成推進事業						加速化交付金			
平成28年度事業費	8,818,303					円	関連施策等			
事業概要・実績（内容）	・象徴空間開設を見据えた来訪者の受入れ環境整備（アンケート調査、メニュー等の多言語化、接客研修、FIT向け観光モデルコースの造成、ガイド指導者の育成等） ・多文化共生のまちづくりの推進（吉本地元学・自分育てプログラム2回の実施、シンポジウムの開催等）						102070101			
事業効果・成果	訪日外国人や個人旅行者の受入体制の整備とおもてなしに対する気運醸成につながった。また、町民参加・体験型の多文化共生社会シンポジウムの開催により、多文化共生のまちづくりに対する町民の理解度が深まった。									
事業の課題等	象徴空間開設に向けて、更なるおもてなし環境の整備と、多文化共生のまちづくりへの理解度を深めていく必要がある。									
翌年度以降の事業の方向性	既存事業（巨大パッチワークづくり等）の拡充のほか、新たな取組みを考え、多文化共生のさらなる理解・普及を図っていく。									
重要業績評価指標（KPI）		単位	目標値	当該年度達成率	2015（平27）	2016（平28）	2017（平29）	2018（平30）	2019（平31）	
1	多文化共生、アイヌ文化の理解・普及が高まっていると考える町民の割合	%	70	55%	0	38.7				
2										
3										
4										
5										
加速化	多文化共生のまちづくりを進めることを知っている町民の割合（理解普及）	%	60	93%		55.8				
事業の評価	①重要業績評価指標（KPI）への有効性						A	11	A	
	A. 直接効果あり B. 間接効果あり C. 効果なし									
	②町が実施する必要性									
	A. 必要 B. どちらともいえない C. 不要									
	③事業実施の有効性、成果									
A. 効果あり B. どちらともいえない C. 効果無										
④事業の効率性						B				
A. 適切 B. 改善の余地あり C. 非効率										
有識者意見									評価	
・町民参加・体験型の事業は有益である。次年度以降の継続実施を期待する。 ・言葉先行ではなく、言葉の意味をきちんと伝えることが大切。依然として、町民理解の不足が課題として感じられる。									A	